

# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
**洛友会**  
 京都市左京区田中大町49  
 075-701-3164

## 洛友会支部総会(第一部)余話

会長 大 谷 泰 之

本号が会員の皆様に届く頃には、昨年の記録的猛暑渴水と変つて、平年並か、あるいは多雨形を予想されている梅雨も終りかけている頃と思われる。更に阪神大震災の復興も漸次進み、超円高に伴う長期不況のトンネルも出口に近づき、オウム事件その他の暗いニュースも少しは少なくなっている事と期待している。

会員の皆様も若干明るい初夏を迎える、益々健勝にお過しの事を祈念している。殊に阪神大震災に被災された関西支部会員の方々の復興計画も順調に進み、また避難専また会員、特に本部及び支部役員の皆様には、総会でお願い申

し上げておいた会員名簿発行に伴う広告募集にご尽力頂いている事を感謝し、重ねてお願い申し上げる次第である。

次に本年の総会は5月19日の九州支部をトップに、約半ヶ月間に中国、四国、関西、東京各支部と本部総会が開かれた。筆者は腰痛その他体調の加減で、その内博多、北陸(富山)、中部(名古屋)の総会には副会長の近藤先生が出席され送り頂き恐縮至極であった。

### 第一部洛友会支部総会余話

5月26日(金)例年通り高松市新

次に筆者が出席させて頂いた支

部総会に関連して、印象に残つておられる事を略記させて頂きたい。

### ①九州支部総会

5月19日(金)博多全日空ホテルで開かれた。出来るだけ活発な楽しい会合にしたいとの上田保之支

部長(27卒)の努力により、先ず

パーティー形式で30分位懇談し、次いでテーブル形式で食事を共に

し乍ら、出席者全員(22名位)の一

番若い会員から、趣味(スポーツ

から尺八等)を中心とした面白い

自己紹介があり、最後には珍ら

く最も年長の先輩(11卒)から「60

年も昔の学生時代、教室の東側に

あつた食事処?で一人の美しい娘

さんと楽しい出会いをしている夢

を最近みた」お話等、全く時間が

たつのを忘れてしまった程の会合であつた。そして安田振之助(84才)

さんの乾杯で散会した。

翌20日(土)は筆者の希望で午前

中から上田支部長と加藤勝彦幹事

(41卒)お二人の案内(車で、福岡

県立及び市立両美術館を他では見

られない名画展を鑑賞後、福岡

ドーム球場の側に新設されたシ

ル京阪で開催された。先ず寿栄松

憲昭支部長(26卒)の挨拶で始まり、

特に例年秋の大行事である家族見

学(関西国際空港他)ではバス10

台を連らねての大旅行であった事

等の報告があつた。更に本年1月

17日の阪神大震災に際し、支部会

員の被災状況を調査するため、予め被災地に在住しておられる会員

一覧表を会報(4月号)に掲載し、

本部から近藤文治、大嶋幸一、佐々木昭夫(教室)3副会長、矢木

原常任幹事、神戸俊夫デルタ会代

表幹事、大野彰中部支部長を含め

80数名出席があつた。

明のため、久し振りで四国電力本

社に社長近藤耕三氏(28卒)(四国

支部長)を訪ね、阪神大震災に関

連して、関西電力復旧工事に四国

電力はじめ西日本電力各社の協力

状況や、更に四国西南部太平洋沖

の大地震予想シミュレーションの

番若い会員から、趣味(スポーツ

から尺八等)を中心とした面白い

自分紹介があり、最後には珍ら

く最も年長の先輩(11卒)から「60

年も昔の学生時代、教室の東側に

あつた食事処?で一人の美しい娘

さんと楽しい出会いをしている夢

を最近みた」お話等、全く時間が

たつのを忘れてしまった程の会合であつた。そして安田振之助(84才)

さんの乾杯で散会した。

翌20日(土)は筆者の希望で午前

中から上田支部長と加藤勝彦幹事

(41卒)お二人の案内(車で、福岡

県立及び市立両美術館を他では見

られない名画展を鑑賞後、福岡

ドーム球場の側に新設されたシ

ル京阪で開催された。先ず寿栄松

憲昭支部長(26卒)の挨拶で始まり、

特に例年秋の大行事である家族見

学(関西国際空港他)ではバス10

台を連らねての大旅行であった事

等の報告があつた。更に本年1月

17日の阪神大震災に際し、支部会

員の被災状況を調査するため、予

め被災地に在住しておられる会員

一覧表を会報(4月号)に掲載し、

本部から近藤文治、大嶋幸一、佐々木昭夫(教室)3副会長、矢木

原常任幹事、神戸俊夫デルタ会代

表幹事、大野彰中部支部長を含め

80数名出席があつた。

明のため、久し振りで四国電力本

社に社長近藤耕三氏(28卒)(四国

支部長)を訪ね、阪神大震災に関

連して、関西電力復旧工事に四国

電力はじめ西日本電力各社の協力

状況や、更に四国西南部太平洋沖

の大地震予想シミュレーションの

番若い会員から、趣味(スポーツ

から尺八等)を中心とした面白い

自分紹介があり、最後には珍ら

く最も年長の先輩(11卒)から「60

年も昔の学生時代、教室の東側に

あつた食事処?で一人の美しい娘

さんと楽しい出会いをしている夢

を最近みた」お話等、全く時間が

たつのを忘れてしまった程の会合であつた。そして安田振之助(84才)

さんの乾杯で散会した。

翌20日(土)は筆者の希望で午前

中から上田支部長と加藤勝彦幹事

(41卒)お二人の案内(車で、福岡

県立及び市立両美術館を他では見

られない名画展を鑑賞後、福岡

ドーム球場の側に新設されたシ

ル京阪で開催された。先ず寿栄松

憲昭支部長(26卒)の挨拶で始まり、

特に例年秋の大行事である家族見

学(関西国際空港他)ではバス10

台を連らねての大旅行であった事

等の報告があつた。更に本年1月

17日の阪神大震災に際し、支部会

員の被災状況を調査するため、予

め被災地に在住しておられる会員

一覧表を会報(4月号)に掲載し、

本部から近藤文治、大嶋幸一、佐々木昭夫(教室)3副会長、矢木

原常任幹事、神戸俊夫デルタ会代

表幹事、大野彰中部支部長を含め

80数名出席があつた。

5月26日(金)例年通り高松市新

次に筆者が出席させて頂いた支

部総会に関連して、印象に残つておられる事を略記させて頂きたい。

### ②四国支部総会

5月26日(金)例年通り高松市新

次に筆者が出席させて頂いた支

部総会に関連して、印象に残つておられる事を略記させて頂きたい。

### ③関西支部総会

5月28日(日)京都駅南側のホテ

ル京阪で開催された。先ず寿栄松

憲昭支部長(26卒)の挨拶で始まり、

特に例年秋の大行事である家族見

学(関西国際空港他)ではバス10

台を連らねての大旅行であった事

等の報告があつた。更に本年1月

17日の阪神大震災に際し、支部会

員の被災状況を調査するため、予

め被災地に在住しておられる会員

一覧表を会報(4月号)に掲載し、

本部から近藤文治、大嶋幸一、佐々木昭夫(教室)3副会長、矢木

原常任幹事、神戸俊夫デルタ会代

表幹事、大野彰中部支部長を含め

80数名出席があつた。

5月26日(金)例年通り高松市新

次に筆者が出席させて頂いた支

部総会に関連して、印象に残つておられる事を略記させて頂きたい。

### ④東京支部総会

5月3日(土)東京目黒の八芳園

で本部総会と合同で開催された。

本部から近藤文治、大嶋幸一、

佐々木昭夫(教室)3副会長、矢木

原常任幹事、大野彰中部支部長を含め

80数名出席があつた。

に要約されているが、何にして

も時宜を得た支部活動であつて、

支部長はじめ幹事の皆様のご苦労

に深謝申し上げたい。

次に総会では会則により支部役

員の改選が行われ、支部長は木村

陸朗氏(27卒)、副支部長は鷲見禎

彦氏(28新卒)が交替された。今年

度は名簿広告募集というご苦労も

あり宜敷くお願い申し上げたい。

員の改選が行われ、支部長は木村

陸朗氏(27卒)、副支部長は鷲見禎

彦氏(28新卒)が交替された。今年

</div

先ず東京支部総会が開かれ、近藤貞吉支部長（28新卒）から諸会合や事業の活性化方策等を今後検討するため幹事会を2回開いた等の挨拶があつた。次いで例年通り、見学会、旅行会、講演会、趣味の会、テニス会、ゴルフ会、グループ会等々盛沢山の行事報告があつた。

次いで役員交替があり、新支部長に伊藤利朗氏（29卒）、副支部長に萱島興三氏（30卒）その他が就任された。伊藤新支部長から暗いニュースの多い社会を「洛友会の持つヒューマンネットワーク」について活発に明るく活動し、名簿広告募集にも努力したい旨挨拶があつた。

⑤本部総会が東京支部総会の後、副会長近藤先生（常任幹事）の司会で開催された。筆者が会長として挨拶した後、昨年度事業報告、収支決算、矢木原常任幹事更に今年度事業計画、予算、特に名簿発行広告募集についてのお願いや、会費納入率が（前号会報にもある通り）年々低下して来た事が運営上問題であり、皆様の会費納入にご協力を頂きたい旨お願いがあつた。更に電気工学講習所同窓会デルタ会から創立80周年を記念して百万円の寄付金があつたので別会計として保管し、ご相談の上有意義に使用させて頂きたい旨報告があつ

た。次いで今年は役員改選の件が審議され、原案通り会長副会長の重任が諒承された。尚筆者から今回の原案は震災のため役員会が中止になり書類審議の結果自動的に重任案が内定した次第で、筆者は体調の加減で会長職を務める事は限度に来ており、次回か来年には近藤副会長に交替して頂きたいと思っている旨発言させて頂いた。

尚各支部総会には教室の教授が出席して教室の近況報告が行われたが、その内容は電気系教室が本年度より大学院(電気工学・電子工学・電気通信工学の3専攻)に組織変更が行われ、各専攻には専任、基幹、協力の3種の大講座が置かれ、夫々の関連部門の教官決定分のみの一覧表が配布説明があった。尚洛友会員でなかつた3教官、松重和美(九大物)・宅間薰(東大工)・橋邦英(京大機)の3教授が洛友会の推薦会員に推薦されることになった。

尚またご承知の通り、京都大学は平成9年6月に創立百周年を迎えるので、財京都大学後援会の創立百周年記念事業実行委員会から京大が計画している各種の記念事業計画の達成に協力するため6億円の募金事業を実施する趣意書を卒業生宛に送付されている。(尚阪神大震災の被災者には未送付の由である)募金額の標準は参考ま

でに同封してある由である。尚電気工学教室は翌平成10年に創立百年周年を迎えるので、これに対応しても教室内で委員会を設け検討されている由である。何れにしても洛友会各支部に上記京都大委員会の地方の実行委員を依嘱されている方もあり、昨今の厳しい経済状況下誠に恐縮ですが出来るだけご協力を賜り度、筆者からもお願い申し上げたい。

東京支部では恒例の行事の一つとして、総会の席上、米寿、喜寿の会員に記念品が贈られるが、今年は米寿9名、喜寿13名の会員へ贈られた。心からお祝いを申し上げたい。懇親会の席上、代表して若林桜人也氏（5卒）からご挨拶があつたが、お見かけしたところ、もう一人の浅井光枝氏（7卒）共々並ばれた喜寿の方々と余り変わぬ程お元気であった。尚総会には昨年米寿になられた藤宗寛治氏（13卒）も元気に出席して居られた（同氏は現在電気評論社の東京編集委員会に毎回出席される上、毎号に特別寄稿をして貰っている）

総会は予定通り午後7時半、新副支部長萱島慶三氏の締めくくりの挨拶で閉会した。

- ・一度記事の切抜きを見直してみると、**大地震災害の教訓**を生かした記事、地震関係専門学者の**地震予知**、更に**地震発生後の都市防災対策**等々多くの気になる記事が見出された。原稿締切日の関係で見出されまことに次にひろい書きをする。
- ・先ず兵庫県内では今も仮設住宅で約3万5千人が避難所で不安定な暮らしを余儀なくされている。
- ・災害時電話不通、安否連絡までは屋外の電話引込線に電話をつなぐ。情報中継の人を決めておく、他都市経由で連絡網、広範囲で使える無線。
- ・民間の世論調査(2/18)によると、大地震が起ころ不安を感じるのは大阪は東京の22倍もあった。
- ・震災時神戸の地下鉄に電車13本、乗客420人、冷静な脱出行。1時間かけて3.2km駅へ、唯一の頼りは非常用の照明であった。
- ・阪神工業地帯は1ヶ月過ぎ復旧は「仮」から「本格」へと動き始めた。工場や商店に活気が起り、お金の動きも戻り始めてきた。
- ・わが家の防災(一般投稿から)タنسや家具等寝室に置かず、家具は固定する。家の窓は小さめに、壁は多く、すじがいを入れる。古い木造房屋でも家中の部屋の四隅に補強用の柱を添える。屋根瓦を軽いものに替える。
- ・高速道路神戸線655mの倒壊は安

全神話崩壊の象徴ともなった。これはビルツ工法と呼ばれ万博開催前の安価なスピード工事であつて、土木学会の研究者が倒壊現象を調べたところ、ビルツ式の構造のもろさ、橋脚の鉄筋の圧接不良、橋脚のコンクリートの強度不足などの可能性の指摘があつた。

- ・神戸ポートアイランドの地下液状化、軟弱地盤で継ぎ揺れの地震波を地表では3倍に増幅されるに対し、横揺れは変化しなかつた。
- ・神戸では4階建て以上のビル割近くが使用禁止となり、堅固な篤の銀行にも被害が続出した。
- のない中間階の破壊(層崩壊)もじつた。

・**地震予知研究**

わが国で地震予知の研究を始めて30年になるが、これまで予知成功した事はない。今回の阪神・震災でも予知に投じる資金があるば、「それを防災対策に投じた方がよい」という意見もある。発生直しばしば地震専門学者から「実前兆現象の微小地震があつた」、という説明があった。地震予知は可能とする説は地震の少ない欧米諸国や地震の多い中国やギリシャで積極的に研究されていて、実際にいくつかのケースで予知に成っている。中国では井戸の水位動物の異状行動等のデータの積重ね方法で予知に成功している。

ギリシャでは地中の電磁波を観測して予知している。実はわが国でも地震の専門学者以外から北海道に異状な極長波電磁波を観測しており予知に利用出来るのではないかとの声が出ている。しかしこうした研究は専門学者の間で無視されたりしている。

わが国は世界一の地震国であり欧米諸国のように予知不可能とあきらめるわけには行かない。地震予知は先駆的な科学技術をわが国にもたらす可能性のある研究テーマである。一方科学技術庁防災科学研究所を中心に、直下形地震の予知技術の確立を目指して、地下数千mに地震計、歪計を設置するシステムやレーザー測定器を利用して地震による距離の変動を測定する陸地観測システムの研究が行われている。

建設省建築研究所応用地震学石橋室長によると地震科学の研究成果が自治体の防災対策に生かされないまま大惨事を招いてしまったとの事。(同氏著「大地動乱の時代」(岩波新書参考)復興計画には重要な地震学の知見が見過ごされそうな危惧を覚える。その知見とは、あと数十年以内に四国沖でM8級の巨大地震の発生が予想され、その他日本列島のほぼ全域で大地震との共存を考えなければならない。

東方沖地震や阪神大震災の数日前に異状な極長波電磁波を観測しており予知に利用出来るのではないのかとの声が出ている。しかしこうした研究は専門学者の間で無視されたりしている。

日本全体の地震を軽減するには都市の集中過密を見直し、人口や産業のバランスを回復する事が不可欠である。更に地盤の影響が強震には大きい。地震科学としては、従来の地震予知一辺倒の姿勢を改め、新たに地震災害軽減計画を立て断層調査を含む全国的地震危険度評価の上に地震予知や早期検知等を組合せていくべきであると同氏は述べている。

以上述べたように、五千人の命を奪い三千万人の人々を路頭に迷わせた阪神大震災は予知することができ出来なかつた。兵庫県災害対策本部が発表した地震の被害総額は九兆五千億円にも達し、産業にも大きい打撃を与えていたが、もし地震を事前に予知出来ていたら人命を中心として被害はもっと少なくなるつていた筈である。

阪神大震災をきっかけにして、危機管理体制の欠如が一層混乱を招き対応を遅くさせる結果となつた。基本が大切であり主軸がしっかりしていればリスクをかなり回避出来ることを立証したはずだ。建物の耐震設計のしっかりといたビル、マンション、住宅は殆んど傷んでいない。情報通信回線も衛生通信回線など多元的な体制をとっているところは難を逃れた。震災は基礎も含めた基本姿勢の大切さと同時に危機分散の重要さを身をもつて教えてくれた。

またソフト面でも緊急事態に対する危機管理体制のモロさを教えた現政権も問題である。更に神戸その他の都市の華かな開発主義で、高層ビル、新幹線、高速道路も、他の産業社会も色々な教訓を与えてくれた。全てを崩壊させる自然力に対して大きい不安を感じるが、82才の老筆者もまだあきらめるわけには行かない気持ちである。

以上第一部として洛友会総会について、第二部として阪神大震災について、思いつくままに、また報道関係の記事を見るまことに余話として記述した。時間がなかつたので纏まりのないものになつたがお暇の節読んで頂ければ幸である。

最後になつたが今回の総会で退任された東京の近藤貞吉支部長及び関西の寿栄松憲昭支部長のご苦労に深謝申し上げる。更に会員の皆様のご協力ご支援名簿発行広告の件等をお願い申し上げ、更に

ご健康とご多幸を祈ると共に、阪神大震災で被災された会員の皆様の一日も早い復興を切に祈念して擱筆する。

(平成7年6月17日記)

## 電気系教室だより

教官の異動  
次のような異動がありました。

平成7年4月1日、橘邦英

松山隆司

平成7年4月16日、岡山大学工学部電子情報工学科教授に就任。

平成7年4月16日、岡山大学工

もつて教えてくれた。

またソフト面でも緊急事態に対

する危機管理体制のモロさを教え

てくれた。戦後民主主義がもたら

した現政権も問題である。更に神

戸その他の都市の華かな開発主義

を与えてくれた。全てを崩壊させ

てくれた。

戸その他の都市の華かな開

業計画、役員改選(別項参照)の説明があり、次いで矢木原事務局長より平成6年度収支予算案の説明があつた。特に近藤常任幹事より今年は名簿発行の年にあたり、正格な名簿作成に皆様の情報をお願いする。同時に広告募集に努力願いたい。また会費納入率が昭和62年69.6%ピーカに減少し、平成6年度は53.2%と悪くなっています。今年は評議員、学年幹事を通じ、良くなる様協力賜りたい。と説明された。以上各案件を審議の結果それぞれ原案通り可決されました。なお平成6年度決算および平成7年度予算について別表をご参照ください。

と同時に近藤副会長から電気工学講習所同窓会デルタ会から100万円の寄付について報告があり、佐々木教授(副会長)から京都大学電気系教室が大学院工学研究科と改称され、電気工学(安陪教授)、電子物性工学(松重教授)、電子通信工学(田丸教授)の3専攻になり、電気電子工学科長に田丸教授が就任された。さらに新しく教授に向えた方々は宅間教授、橋教授、松重教授、松山教授で洛友会会員に推薦すると報告された。次に京大創立百周年記念事業計画の援助と一年後電気系教室の百周年もよろしくと説明された。

### 平成6年度収支決算 平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

## 収入の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	備考
会費(学部) (講習所)	9,900,000 330,000	9,912,000 309,000	3,304名分 103名分
預金利子	250,000	149,490	
広告掲載料	130,000	140,000	会報広告14社
雑収入	10,000	4,000	
収入小計	10,620,000	10,514,490	
前年度繰越金	11,466,499	11,466,499	
合計	22,086,499	21,980,989	

## 収入の部

(単位 円)

科目	予算額	H6年度決算額	備考
会費(学部) (講習所)	9,960,000 240,000	9,912,000 309,000	3,320名分 80名分
預金利子	200,000	149,490	
広告掲載料	4,200,000	140,000	H5年度 4,126,000円
雑収入	10,000	4,000	
収入小計	14,610,000	10,514,490	
前年度繰越金	11,532,128	11,466,499	
合計	26,142,128	21,980,989	

## 支出の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	備考
名簿編集費	0	0	
電算機処理費	0	0	
印刷費	0	0	
発送費	0	0	
会報編集費	0	0	
印刷費	1,200,000	1,322,520	毎回5,500部 年4回発行
発送費	2,100,000	2,043,086	
備品費	0	0	
通信費	170,000	132,733	
会員原簿管理費	600,000	689,864	計算機処理費(年4回)
会合費	350,000	0	役員会費 (含旅費)
総会費	300,000	300,000	
集金	200,000	187,340	振込手数料等
消耗	400,000	517,954	
旅費	350,000	316,340	支部総会出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	3,489,024	3,489,024	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雜費	0	0	
予備費	10,976	0	
支出小計	10,620,000	10,448,861	
次年度繰越金	11,466,499	11,532,128	
合計	22,086,499	21,980,989	

## 支出の部

(単位 円)

科目	予算額	H6年度決算額	備考
名簿編集費	0	0	H5年度 0円
電算機処理費	500,000	0	477,088
印刷費	5,500,000	0	5,567,150
発送費	1,400,000	0	1,378,354
会報編集費	0	0	計7,422,592円
印刷費	1,200,000	1,322,520	毎号5,500部 年4回発行
発送費	2,100,000	2,043,086	
備品費	0	0	
通信費	160,000	132,733	
会員原簿管理費	700,000	689,864	計算機処理費(年4回)
会合費	350,000	0	役員会会合費 (含旅費)
総会費	300,000	300,000	支部渡し
集金	200,000	187,340	振込手数料
消耗	300,000	517,954	
旅費	350,000	316,340	支部総会出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	教室行事補助
支部交付金	0	3,489,024	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雜費	0	0	
予備費	100,000	0	
支出小計	14,610,000	10,448,861	
次年度繰越金	11,532,128	11,532,128	
合計	26,142,128	21,980,989	

## 預金及び現金

平成7年3月31日現在

普通預金	859,321	郵便振替	621,893
定期預金	10,000,000	現金	50,673
当座預金	241		

合計 11,532,128

平成7年5月25日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

教室常任幹事 木村磐根

洛友会役員改選通知

## 関西支部役員改選通知

九州支部總會

6月3日、本部総会において左記のとおり改選されました。退任(退)及び新任(新)を含め役員名は

平成7年度関西支部総会において左記の通り役員の改選がありましたので通知致します。

5月19日(金) 博多駅前の博多  
全日空ホテルにおいて、平成7年  
度洛友会九州支部総会が開催され  
ました。当日は、本部から大谷泰  
三

平成7年5月20日(金)広島全日  
空ホテルにおいて平成7年度洛友会  
中国支部総会が開催されました。

記

副会長 昭18近藤文治(現) 大谷泰之(現)

支部長 昭20  
木村睦明(新任)

副支部長	昭28新驚見禪彥(新任)
總務幹事	昭38
會計幹事	昭47
昭56	和田治(退任) 上田成之助(新任)
尼田賢光(新任)	尾村隆幸(退任)

東京支部役員改選通知

平成7年度東京支部総会において左記の通り役員の改選がありましたので通知致します。

文部長	昭28	新近藤貞吉(退任)
副支部長	昭29	伊藤利朗(新任)
秘務幹事	昭30	萱島興三(新任)
昭51	昭50	横川文彦(退任)
辻本雅彥(新任)		

云計幹事 昭52 七原俊也(新任)

いたしました。

報創刊号での洛友会初代会長鳥巣先生の言葉を紹介しながらご説明

るはとて 最後に会員で詠念会を行  
を撮り、次回の再会を誓つたところ  
で散会となりました。

会員同士の歓談の合間を縫つて、総会議事の平成6年度会計報告や、平成7年度の九州支部行事の提案等があり、承認されました。

総会は、牧幹事の司会で、松谷支部長の挨拶からはじまりました。まず、支部事務局から会計報告予算案の説明、一部役員改選案の



中国支部總會

説明を行い、満場一致の承認を得、統いて支部活動状況と会員の移動状況について報告を行いました。次に、近藤先生から本部、各支部の近況について、西川先生から教室の最近の動向について報告を頂きました。

議事が滞り無く終了し、別室での写真撮影終了後、懇親会へ移りました。久しぶりに顔を合わせた参加者のあいだでは、話が弾み、会は大いに盛り上がりました。

(昭和62卒 池本克行記)

午後8時過ぎ、なごりはつきませんでしたが、時間となり来年の再会を誓つて散会となりました。

5月26日(金)、高松市内の旅館「新常磐」において第40回洛友会四国支部総会が開催された。本部から大谷名譽教授(洛友会会長)、教室内から石川教授の御出席を頂き、四国内からは38名の会員が集つた。総会は近藤支部長の挨拶で始まり、四国支部は年々若返っているので若い顔を覚えて欲しい等のお話があつた。

次に大谷先生より挨拶があり、今年は名簿発行の年であるので協

## 四国支部総会(第40回)

5月26日(金)、高松市内の旅館「新常磐」において第40回洛友会四国支部総会が開催された。本部から大谷名譽教授(洛友会会長)、教室内から石川教授の御出席を頂き、四国内からは38名の会員が集つた。総会は近藤支部長の挨拶で始まり、四国支部は年々若返っているので若い顔を覚えて欲しい等のお話があつた。

次に大谷先生より挨拶があり、今年は名簿発行の年であるので協

近況などをユーモアを交えて話された。また石川先生からは今年の卒業生の進学、就職状況や大学院重点化に伴う改組により新しくなった教室の組織について紹介があつた。

統いて、会務、会計報告、予算案審議が行なわれ、会務報告では昭和18年卒の三木敬一郎氏、昭和50年卒の柳川豊孝氏の計報及び、新浜工専などに4名の転入者の新規登録が紹介された。会計報告、予算案についてもスムーズに審議が進み、無事総会は終了した。

引き続き懇親会に入り、先生方との歓談や久し振りに顔を合わせた先輩、友人と酒を酌み交わしながらの談笑など、楽しいひとときを過した。最後に全員が肩を組み、恒例となった「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締め括つた。

その後、石川先生をはじめ有志一同は街に繰り出し、深夜まで電気工学講義に花を咲かせたり、自慢の喉を披露しあつた。

翌日、大谷先生は高松市美術館でお好きな絵画を鑑賞された後、京都へお帰りになり、石川先生は願化幹事(昭和43年卒)と鳥谷(昭和60年卒)の案内で、屋島、栗林公園、与島(瀬戸大橋)を観光され



屋島へ向うドライブウェイでは上り坂なのに下り坂に思えてしまって、古に思いを馳せられているご様子であった。



瀬戸大橋で唯一、島に下りられる与島では、展示されてあつたつり橋のケーブルの大きさに圧倒されながらも、身近に見える橋、特に斜張橋の美しさに感嘆されたご様子であった。更に、日本で初めて太平洋を横断した咸臨丸で与島を一周し、心地よい風に吹かれながら眺める海上からの瀬戸大橋も、また圧巻で、楽しい船旅だった。

栗林公園では、掬月亭や堰月橋からの眺めに、しばし日常を忘れていた。掬月亭ではお茶見入られていた。掬月亭ではお茶をお召し上がりになり、19室もある平屋の建物に、究極の贅沢だけおつしやられていた。

その後、讃岐名物のうどんに舌鼓を打たれ、海沿いの道を、瀬戸内海の景色や瀬戸大橋の遠景などを楽しみながら、与島へと向った。

その後、讃岐名物のうどんに舌鼓を打たれ、海沿いの道を、瀬戸内海の景色や瀬戸大橋の遠景などを楽しみながら、与島へと向った。

## 関西支部総会

5月28日(日)に、ホテル京阪京

都で関西支部総会を開催いたしました。昭和11年卒業の大先輩から長の挨拶、今年に入つて大きなことが起つて、まず阪神・淡路

大震災における会員の被災状況を調査させていただいた結果、会員死亡1名重傷4名家屋の全壊45軒と回答情報を賜りました。心からお悼みとお見舞いを申し上げます。

また円高問題は企業にとって本当にむつかしい時代に入つてしまましたが頑張るしかない。次に平成6年度の支部活動は5月の総会、10月の家族同伴見学会はATCと関西新空港バス10台総勢382名と最多のご参加をいたしました。また年2回のゴルフ競技会は計18組のご参加をいただき予定の行事を終えたむね挨拶された。統いて大谷

会長は、今年は年の初めから地震そして、先生は今度は列車で瀬戸大橋をお渡りになり、旅の疲れもお見せにならず、元気に四国を後にされた。

(昭和60年卒鳥谷和司記)

等10大ニュースが全て出つくした感である。関西支部では多くの会員が被災された心からお見舞い申し上げます。会報に記載したとおり、地震後直ぐ皆さんとこへ電話したが直ぐ通じなくなつた。今年は各支部総会(九州、四国、関西、東京)にも参加したが杖が必要になつた。もう一期会長で頑張るが、次回は退任したいと挨拶された。議事は平成6年度事業および決算報告、平成7年度事業計画と予算編成、支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。平成7年度の新支部役員は次の通りです。(敬称略)

支部長	昭27	木村陸朗
副支部長	昭28	鷺見禎彦
総務幹事	昭47	上田成之助
会計幹事	昭56	尼田賢光

その後、近藤副会長から本部の状況報告、平成6年度は会員総数約6千人に対し3千百人の方しか会費をいただけなかつた。納入率は53・2%と悪くなつた。どうか会費は支部活動にも関係しますので納入にご協力を賜りたい。また今年は新名簿を発行しますので、会員一人一人の正格な情報を出してほしい。名簿広告は大変ですが広告募集に努力していただきたいと話された。統いて佐々木副会長から教室の近況を資料によりわかりやすく報告をしていただきまし



教養部の廃止と大学院重点化構想による改組の状況について説明いたしました。また、創立百周年記念事業への協力の依頼がありました。

さる6月10日(土)、富山市「神通荘」において、平成7年度の北陸支部総会を開催しました。本部からは近藤副会長、教室からは藤田茂夫先生をお迎えし、過去最大規模の26名が出席しました。

総会は、川端支部長のご挨拶で始まり、支部近況報告、会計報告と続き、役員改選では、現役員がそのまま留任となりました。

北陸支部総会

さる6月10日(土)、富山市「神通荘」において、平成7年度の北

A formal group photograph of 20 men in suits, arranged in four rows of five. They are seated in the front two rows and standing in the back two rows. The background features a large, detailed landscape painting.

幹	顧問	顧問	改選された支部役員
事	金井久兵衛	昭5卒)	
羽場	西岡敬二	(昭7卒)	
柴田	川端昭	(昭24卒)	
宮越	杉本浩	(昭24卒)	
久和	村本浩	(昭28新卒)	
西念	中島一恭	(昭9卒)	
恭一	森本芳夫	(昭16卒)	
金森	閔治昭	(昭40卒)	
中島	西念勉	(昭46卒)	
羽場	久和進	(昭47卒)	
柴田	保弘明	(昭39卒)	
宮越	政通昭	(昭40院卒)	
孝俊	白江昭	(昭55卒)	白江孝俊記

た。最後に関西支部にて調査した  
「阪神・淡路大震災における会員  
の被害状況」の概要を報告いたし  
ました。(詳細は別項で報告)  
総会終了後、同伴で御出席され  
た3名の御夫人を加え、懇親会を  
開催いたしました。

間に過ぎ、最後に関西支部では恒例となつてゐる西台惇昭32卒氏の指導で「洛友会の歌」を全員で斉唱しました。また、歌詞の中にある「また会う日まで強く生きなん」を近藤副会長の締めの言葉で再確認し、再会を誓い合いました。

入り、先生方や先輩、友人と酒を酌み交わしながら歓談し、楽しい一時を過ごしました。眼前に広がるはずであった夕陽に煙く雄大な北アルプスの景色は、あいにく雲がかかり望めなかつたものの、最後に恒例となつてゐる逍遙の歌と琵琶湖周航の歌を合唱し、万歳で散会となりました。



る「本多杯」取切り戦。初参加でも資格あり、奮ってご参加下さい。



## 昭十会60周年記念会

昭和10年卒業の私共は、本年60周年の記念の年を迎えたので、去る4月28日(金)、京都ホテルで記念の懇親会を行ないました。

現在の生存者20名の内14名と同伴者4名の御参加を頂き、久し振りに懐しい語らいと友情交換に改めて親睦を深め、わずか3時間の会合で充分盛大な記念の会合を樂

しむことができ、さらに再会を約して散会いたしました。  
因に当日の参加者は次の通りです。(敬稱略)

大曲俊彦、神谷進、黒田治夫、小寺正暁、塩澤弘、清水威寛、田村誠一、高木正、高田昇平、高田夫人、殿井不二雄、中堀孝志、中堀夫人、林潔、山田昇、山田夫人、和田寿太郎、黒田夫人

以上18名、写真貼布  
(一九九五、五、一八、和田記)

## 卒業50周年公孫樹会

終戦直後の昭和20年9月に卒業して以来50年になるのを記念して、去る5月15日(月)、級友山口春男

君の緻密で周到なお世話により、京都御苑の西ブライトンホテルでクラス会が催され、写真の19名(上田夫人を含む)が集まつた。公孫樹会という名称は恩師鳥養利三郎先生の御命名による。

翌16日(火)は、葵祭が中止になるといふ天候(雨)ではあったが、これも山口君の案内で、有志十人余が清水寺から円山公園の辺りの散策を楽しんだ。

50年の歳月が級友の一人一人に

前列左より伊藤定昌、田中隆造、矢田純朗、西原宏、高橋圭介、大月清一、上田敏行、上田卓子、中段、左より小原富重郎、高井公雄、山口春男

(西原宏記)



## 阪神大震災による被災情報

卒業年	氏名	住所	状況
昭7	善積 儉一	宝塚市	平屋建屋根瓦ズレ。スレート葺に改良済、家族共ケガもなく無事。
〃10	神谷 進行	ク	損傷を受けたが修繕工事終了。家族共無傷。
〃11	森元 行	ク	家の壁、タイル損傷近日修理予定。夫婦と近所の長男一家無事。
〃13	岡高 滉	ク	異状なし。
〃14	岩田 賢治	ク	室内はかなりの被害を受け2週間外泊したが無事。
〃16	前田 達	ク	住居被災なし、家族共無事。
〃16.12	安達 賢一郎	ク	家屋小損、家具の被害のみで皆無事。
〃23	小林 佐久次	ク	家屋は一部損壊。家族共無事。
〃26	神谷 友俊	ク	自宅全壊で解体すみ、一時避難所へ。取りあえず隣家に居住中、皆無事。
〃34	伊藤 勝	ク	自宅半壊(屋根瓦が使用不能、壁ひび割れ、石垣亀裂)
〃36	林幸彌	ク	家屋の被害なく、食器類の損傷のみ、家族共無事。
〃45	高瀬 崎彌	ク	家屋一部損壊。家族共無事。
〃55	野彦	ク	自宅(マンション)半壊。
昭16.12	井上 武吉	箕面市	家屋小損。家具の被害あるも、皆無事。
〃17	珠泰	ク	本棚ガラス、植木鉢の破損程度。
〃28新	川口 健二	ク	燈籠、花瓶等が転倒した程度。
昭16.12	西村 正太郎	川西市	夫妻共無事。
〃25	奥村 徹	ク	家屋無事、倒れたタンスの下敷きの家内腰骨骨折60日間入院他皆無事。

卒業年	氏名	住所	状況
昭34	宇田祐重	川西市	軽量鉄骨プレハブの家無事。
昭13	馬淵重三	伊丹市	家屋一部損壊。皆無事。
〃13	近藤喜久治	〃	被害なし。
〃16.12	安藤安二	〃	家屋の小損、家具の被害のみで皆無事。
〃33	八木晋一	〃	家屋の外壁にひび割れ程度で皆無事。
〃37	村井裕	〃	家屋半壊。
〃45	山内一郎	〃	被害なし。
大13	芦原義重	尼崎市	屋内小破程度。
昭19	清水潤治	〃	家屋小損、内部メチャメチャ。
〃25	中村武三	〃	家屋半壊。家族共無事。
〃32	岡田一彦	〃	自宅(マンション)被災。仮住居へ移転。家族共皆無事。
〃40	河上英典	〃	家族共皆無事。
昭9	仁田工吉	西宮市	坪、家屋半壊修理中、岐阜市の次男宅へ移転。
〃11	那須恂一	〃	家屋、家族共皆無事。
〃13	小林四郎	〃	築29年の木造2階建。軽微な被害のみ、夫妻共無事。
〃14	平木寛	〃	無事。一時横浜へ移住。
〃15	塚原謙三	〃	家屋全壊。生命無事現在入院中。大阪市西淀川区の仮設住宅へ
〃15	松本清隆	〃	家屋全壊。敷地内に仮小屋住まい。夫妻共元気。
〃21	室賀淳	〃	家屋半壊。家族共無事。
〃23	三浦宏	〃	家屋全壊。半壊の部屋で生活中。無事です。
〃23	高橋充夫	〃	家屋全壊。近く転宅予定。皆無事。
〃24	志賀宏	〃	家屋被災約20%
〃25	梅名茂男	〃	マンション11F建半壊。4階のため修理でOK。家族共皆無事。
〃28	小森幹男	〃	家屋半壊。補修完了。無事。
〃29	船越利昭	〃	マンション半壊。補修中一時枚方市楠葉花園町の社宅へ移転。家族共無事。
〃31	梶島曠美	〃	マンション半壊。補修中10月末まで大津市浜大津の永田和正方へ移転、家族共無事。
〃32	林重雄	〃	家屋一部損壊。設備、家具損害あるも、家族共皆無事。
〃33	林良一	〃	家屋半壊。母親タンスの下敷きで骨折で約40日入院。本人無事。
〃36	有本和彦	〃	家屋半壊。
〃36	神原貞夫	〃	被害軽微。
〃38	田渕義彦	〃	家屋半壊(水道管破折、雨樋落下、壁クラック、車小破、他)
〃40	井上驍	〃	家屋一部損壊。(外壁ヒビ割れ)家族共皆無事。
〃41	松島照雄	〃	家屋一部破損。家族共皆無事。
〃50	安部川信憲	〃	家族共皆無事。
〃50	世良武憲	〃	室内食器類壊れる。家族共皆無事。
〃54	玉井紀夫	〃	家族共皆無事。3月に転居(豊中市永楽荘)
〃58	千田裕彦	〃	壁にひび割れ程度。
〃60	三重野雄資	〃	家屋半壊。家族4人皆無事。
平1	竹見政義	〃	家屋半壊。修理可。無事です。
昭10	北村芳雄	芦屋市	家屋倒壊の下敷死亡。
〃16.12	立石行男	〃	家屋半壊。
〃18	角田寛	〃	家屋全壊。建替工事中、離れに仮住中。家族共皆無事。
〃23	河越義博	〃	家屋全壊、芦屋市新浜町の仮設住宅へ移転。無事。
〃23	上米良宮夫	〃	マンション一部破損のみ無事。
〃29	間瀬光朗	〃	家屋一部損壊。家族共皆無事。
〃29	渡辺宏	〃	家屋一部損壊。家具倒壊、坪、テラス損傷。家族共皆無事。
〃34	北村元彦	〃	家屋半壊。液状化の砂が床下。庭に噴出。家族共皆無事。
〃40	小山滋	〃	マンション半壊。修理見積中。義父宅(高槻市柳川町)同居。家族共皆無事。
〃40	分田実	〃	家屋一部損壊。外壁全壊、家族共皆無事。
〃43	木戸出正継	〃	家屋被災(家具、食器類損害)勤務先も被災大阪へ。
〃48	安藤晴夫	〃	一時転居していたが芦屋へ。家族共皆無事。
〃60	門間明	〃	家具か倒れたが、家族共皆無事。
昭14	絹笠隆三	神戸市	家屋全壊。仮寓所東京都大田区久ヶ原2ヘ。

卒業年	氏 名	住 所	状 況
昭17.9	巳斐健三郎	神戸市 東灘区	家屋半壊再建要す。同庭内の長男宅で起居。家族共皆無事。 被害軽微。
〃18	伊原松太郎	〃	家屋半壊。補修中、吹田市の親戚宅に避難5月には戻る。家族共皆無事。
〃19	田代任	〃	実父宅全壊。元気で浜松に移住。小生来年帰国見込。留守宅浜松市へ。
〃22	高月一	〃	家屋半壊。小修理で起居、無事です。
〃26	岡林茂樹	〃	家屋全壊解体撤却済。高槻市西冠1上田方で無事です。
〃28新	大原修	〃	家屋・家族皆無事。
〃29	岩橋茂樹	〃	マンション付近の火事で避難したが無事。屋内約30%の被害、ガラス破片が頭に突刺さり、関電病院1ヶ月入院。妻と妻の母は松山に避難、家族皆無事。
〃29	片山正男	〃	家屋若干の損傷のみ家内共無事。
〃33	潮崎安弘	〃	被害なく無事でした。
〃43	山田忠利	〃	家屋軽傷無事。
〃44	井上徹	〃	マンション全壊。避難中、川西市鷺台2へ。
〃46	和田道夫	〃	家屋、家族共皆無事。
〃47	二神功	〃	家屋全壊1~1.5年復旧まで八尾市桜ヶ丘1へ転居中。
〃56	石崎俊雄	〃	マンション半壊家財全部倒れ床ガラス片散乱、約80日間交野市へ避難したが家族共皆無事。
昭22	若林晴男	灘 区	家屋、家族共皆無事。
〃24	生駒鑑郎	〃	家屋軽傷。家族共皆無事。
昭18	杉根千代二	中央区	家屋全壊。
講昭9	甫木元春繁	兵庫区	家屋、家族共皆無事。
昭15	吉田直浩	〃	家屋半壊、無事。
〃29	岩井勵	〃	家屋全壊。補修工事要、夫妻共無事。
昭17	足立正次	長田区	家屋半壊。避難していたが無事で帰宅している。
〃57	木嶋淳	〃	3月下旬より現住所に家族共皆無事生活中。
昭19	中川三郎	須磨区	家屋一部破損。
〃19.9	岡本孝浩	〃	家屋、家族共皆無事。
〃20	北尾孝也	〃	特に被害なし。
〃25	森岡昌之	〃	家屋、家財一部損壊。家族共皆無事。
〃30	森田重義	〃	家屋半壊。家内が足首に全治1ヶ月の負傷、家族共無事。
〃40	中堀一郎	〃	家財に多少の被害、家族共皆無事。2ヶ月間娘の家より通勤した。
〃43	東和彦	〃	家屋一部損壊程度。無事。
〃45	脇一幸	〃	幸被害なし。
昭16.12	野田忠弘	北 区	家屋小損、家具の被害あるも皆無事。
〃22	信沢武一郎	〃	大きい被災なし。
〃25	小川平助	〃	家具食器割れたが大した被害なし。
〃29	倉野昌夫	〃	無事。
〃31	九鬼一夫	〃	家屋外壁土間に亀裂、被害軽微。
昭46	成松洋	西 区	家屋被害軽度。
〃52	中長英一	〃	大きな被害なし。
昭2	路次安彦	垂水区	平成7年4月12日死去。
〃16.12	森本雄作	〃	家屋小損、皆無事。
〃30	池田成二	〃	家屋基礎と外壁亀裂発生。家族共皆無事。
昭12	丸山孝雄	明石市	家財破損程度。家族共皆無事。
〃27	吉原久雄	〃	特に被害なし。
〃29	安賀隆志	〃	家屋一部損壊(壁、外壁モルタル、水道管、水屋食器)
〃29	桑畠禎文	〃	神戸市のマンション全壊。仮住居明石市二見町福里。
〃36	石井清隆	〃	旧家屋半壊。新築家屋一部損壊。家族共皆無事。
〃60	滝澤修	〃	マンションの壁亀裂。家具散乱。

